

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区亀戸5-38-31
施設名	ワーカーズコープ亀戸のびっこ保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

表現（音楽表現、体を使った表現）

〈テーマの設定理由〉

子どもたちは生活の中で様々な音があることに興味をもっていた。当園では1歳児から朝の会やお帰りの会といった音に触れる活動をしており、日頃から歌や音に親しむことが習慣になっている。縦割り保育を行っているため楽器に触れることが乏しい面もあり、幼児を中心にさらなる音への興味、楽器を用いて友だちと音を合わせ楽しさを共有したり、表現したりすることで、より豊かな感性を育むことを目標としたため

2 活動スケジュール

①多種の楽器に触れ、音を楽しむ興味を喚起した。（通年実施）
②楽器、音楽以外での身の回りにどのような音が自然に存在するか探した。（通年、園外でも行う）
③電子ピアノの様々な音に合わせて体を動かし表現することに興味を喚起した。
④法人内の体操指導の講師を定期的に招き、主に戸外で体操指導を受けている。
⑤①から④の活動を通じ（表現）への意識感心を高め、12月の発表会では音や表現を織り込んだ合奏や体操・遊戯を発表した。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

手作りマラカス・ハンドベル・トライアングル・電子ピアノ・ウッドストック・図鑑・パラバルーン・室内ジャンプ遊具（ぴょんぴょんジャンパー）・キッズラダーロープ・3ステップジャングルパーク

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ①「多種の楽器に触れ音を楽しむ興味を喚起する」活動
手作りマラカス・鈴・ウッドストック・トライアングル・ハンドベルを用意。
年度上期には乳児を中心に手作りマラカス・鈴を用い、音の違いや特徴を考察した。
- ②散歩時、探索をする中で落ち葉やどんぐり等の自然物を拾い集め、触れた時の感覚や音の違いに着目した。
- ③電子ピアノで様々な音を奏でられることに興味を持ち、音色に合わせた動きを自分なりに表現しようとしていた。
- ④法人内の体操指導の講師を定期的に招き、パラバルーンなど室内では難しい活動もダイナミックに行うことができ、表現の幅が広がった。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

日々の生活の中で感じられる音に興味を持った子どもたち、「この音はどんな音かなあ」の保育者の問いにおまごとのフライパンを棒で叩き、「かんかんだよ」、戸外散歩の際にはどんぐりをみつけると「コロコロ音がするよ」など様々な音への興味が広がっている。探索で広い集めたどんぐりでマラカスを作ると自然とともに音への関心も深まっていた。
室内での限られたスペースの中で幼児はジャンプ遊具を用い思いきり体を動かすことができ、心身の健やかな活動を行うことができた。
乳児は戸外では年齢制限が設けてあり、使用することができないすべり台を室内で用意することで雨の日も十分に体を動かすことができ活動の広がりを感じられた。
年度末の発表会では煌びやかな衣装をまとい、音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じていた



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもたちの興味をもったことに焦点を当てて、保育や環境の準備をすることで子どもたちの新たな様子や発見に気づくようになった。
次年度は少人数保育を生かし、年齢分けだけでなく縦割りでグループを作った活動も行えるように工夫をしていきたい。